

なんでも アナリストの つぶやき

注目すべき「中国製造2025」

ワールド ゴールド カウンシル日本代表
埼玉学園大学大学院 客員教授
森田隆大

中国は、中国の株価の乱高下についてよく報道されているが、日本の将来にとってむしろより重要な中国の中長期産業政策「中国製造2025」はあまり報じられていない。「中国製造2025」は、中国政府が今年の5月に打ち出した最重要国策の一つであり、2025年までに中国製造業の競争力を質と量の両面において世界の製造強国入りまでに高めるための重点政策が示されている。また、2035年までに製造強国の程度の実力を目指し、2045年の建国百年時には世界の製造業をリードする地位を確保する目標が掲げられている。

「中国製造2025」には、産業構造改革、企業組織改革、経営改革、資源配分改革、研究開発改革、多分野技術融合改革、生産技術改革、品質改革、環境保全対策、人材改革等が重視されているだけでなく、優先すべき10大重点領域・分野も具体的に列挙されている。すなわち、バイオ製品及び先端医療機器、新材料、農機、電力システム、省エネ・新エネ自動車、先進鉄

道・交通システム、海洋開発設備・先進船舶技術、航空・宇宙システム、先進コンピュータ・ロボット技術、次世代通信システムである。これらは日本が目指す競争分野と重なる。「中国製造2025」について筆者が最も注目したのは、以下の中国政府の現状認識である。(1)中国の製造業は世界水準に比べ規模は大きいが強くない、(2)自己開発・創新能力が低い、(3)コア技術・先端生産設備の対外依存度が高い、(4)品質が必ずしも高くなく、国際的に知名度が高いブランドが欠如している、(5)産業構造が不合理である、(6)資源利用効率が低く、環境保全問題が不完全である、(7)通信技術の水準がまだ低く、産業のIT化が遅れている、(8)企業の国際化・グローバル経営能力が不足しているなど。これほど正直かつ的確な自己分析・自己批判は、中国政府の本気度として受け取るべきである。また、「中国製造2025」に関係する文献を読むと、中国政府が他国製造業について相当程度の研究を行ったことは明らかである。さらに、「中国製造2025」の検討と同時期に、中国政府がシルクロード基金(総額約400億ドル)構想及びアジアインフラ投資銀行(AIIB)構想(資本金1000億ドル)を打ち出したことにも注目したい。誌面の関係で詳細は割愛するが、これらの構想は戦後の米英主導のブレトンウッズ体制に対する挑戦という国際政治面の色が強い戦略ではあるものの、「中国製造2025」を事業面・資金面でも後押しすることを意識した政策でもあると理解するべきである。ここに中国政府の「中国製造2025」に対するコミットメントの強さを感じる。

「中国製造2025」に見られるような、世界競争力についての謙虚な自己評価が継続して維持されれば、中国は間違いなく日本製造業の強敵になる。製造拠点、市場としてだけでなく、先進的な分野についても、日本は中国を世界市場の最重要競争相手として真剣に研究・意識する時期が到来したのではないだろうか？

もりた・たかひろ
ワールド ゴールド カウンシル日本代表。ファースト・シカゴ銀行を経て、1990年にムーディーズに入社。格付委員会議長、事業会社格付部門責任者を歴任。2011年より現職。著書に『格付けの深層』など。埼玉学園大学大学院客員教授を兼任。